



▲はじめてカンガルーをさわったよ！（矢西小）
—岡崎ライオンズクラブ社会見学 東山動物園にて—

かいほつ 67号

學大南小
六年土岐はるか

岡崎市現職研修委員会
特別支援教育部会
平成24年12月3日発行



彼の一步は遅くとも

矢作南小学校長

山口和雄

「校長先生、おはようございます。」

二年生の彼は、朝の教室でも、昼の放課でも、私の顔を見ると、同じ挨拶をしてくれます。しかし、私の顔を見れば挨拶をするという純粋な気持ちがよく伝わってきます。周りの人たちが注意してくれますが、なかなか改善されませんし、それ以上の会話もできません。しかし、にこにこした笑顔が素敵な子で、多くの人たちに愛されています。

一年生に入学したとき、彼は私の着けていたデジタル時計に興味をもちました。毎日校門に立つ私の時計を、時刻表示からストップウォッチ表示などに切り替えて試していました。ひとしきり試し終わると、満足したように私の手元から離れた。離れた後は、フェンスに沿って移動し、運動場からガソリンスタンドにある洗濯機を見つめることが多くありました。機械にとっても興味があることがよく分かりました。

時が経つとともに、彼に変容が見られます。いまだに興味はあるようですが、私の時計に触れることも、洗濯機を見つめることもほとんどなくなりました。それに反比例するように、運動場にあるバスケットボールに向かうことが多くなりました。ボールを上手で投げることはできませんが「いせいへ」、下手で器用に投げ入れ、八割ほどゴールすることができず。運動好きの彼の姿が見えてきます。教室巡回中に出会うと、彼は漢字や計算の練習をしていることが多くあります。コンピュータを使つての計算ゲームに取り組んでいることもあります。機械好きの彼が生かされています。

二年生になって、最近の彼は昼放課などに先頭を切つて運動場に現れます。校長室の窓越しにも顔を出します。二学期が始まった九月のことです。「校長先生、トイレ。」

運動場の端にあるトイレを指差しし、許可を求めてきたのです。私には、今まで聞いたこともない初めての言葉でした。単語だけでしたが、明らかに自分の意志を示しました。歩みは遅くとも、彼が成長を示した瞬間でした。私にとっては、この子の歩みに付き添いたいと感じた瞬間でもありました。

子どもと親の集い ブツブツ交流会

七夕交流会、上手にできたよ

六ツ美・六ツ美北ブロック

六西小 六年 南平 有理

七夕交流会で司会の役でした。きちんとしようとしたけど全部上手にできませんでした。一番楽しかったのは、アンパンマン音頭のおどりでです。なぜなら、おどりが好きだし、うまくおどれたからです。和だいいも上手にできてうれしかったです。七夕さまのげきもハンドベルも、しっかりとできました。

家に帰ってから、お母さんとお父さんに、「交流会、上手にできていたね。」とほめてもらいました。



▲盛り上がったアンパンマン音頭



▲野菜を真剣に切ったよ

おいしかったカレーライス
竜南ブロック

竜南中 二年 成瀬 圭汰

今年の交流会の楽しみは、カレー作り。竜南中の七・八組の生徒が、材料や手順などを発表した後、班に分かれて作りました。班のみんなで協力して真剣に野菜や肉を切りました。お母さんたちにも手伝ってもらいました。

最後に盛り付けて完成。食べながら会話をし、おいしく食べました。調理室が笑顔でいっぱいになりました。

カレーの後は、すごろく、ボウリングゲームやカルタで遊びました。すごろくは、サイコロを振り、マス目を進んでいくゲームです。ボウリングではペットボトルのピンをめがけて柔らかいボールを投げました。カルタでは竜南中生が作った札をとりました。

とても楽しく充実した一日でした。



岡崎ライオンズクラブ 社会見学

はじめて見た、乗った

三島小 六年 西田 響

バスに乗って、東山動物園に行きました。さいしよに見たのはアメリカカバインソンです。牛みたいでした。

一番おもしろかったのは、ゴリラのけんかです。えさを取り合っていました。一ぴきが草を食べたら、もう一ぴきがよこからできて、草をよこ取りしました。えさを取られたゴリラはおこって、もう一ぴきのゴリラをなぐりました。ぼくは、はじめてゴリラのけんかを見ました。草を取ったとき、タイヤが落ちました。水がバシャーンと音をたてました。うるさかったです。ゴリラのけんかは楽しかったです。

次に、スカイタワーに上がりました。エレベーターのドアにキリンやコアラのようがありました。エレベーターに乗っている時間は長かったです。一番上に行ったら、とても高かったです。スカイタワーから下りたら、ちよつと変わったエレベーターに乗りました。すべり台みたいにななめに下がって動いていきました。こんなエレベーターに乗ったのははじめてです。乗れておもしろかったです。

楽しかった東山動物園

矢南小 五年 太田 有三江

わたしは、今年初めて岡崎ライオンズの社会見学に行きました。ペンギンが泳いでいるすがたが、とてもかわいかったです。

お弁当を食べたあとで、東山スカイタワーに上がりました。エレベーターで五かいまで上がりました。まどからは遠くのけしきがよく見えました。すぐ下には、動物園がよく見えました。さつきまでお弁当を食べていたところもよく見えました。何だかふしぎでした。道路を走っている車が、おもちやみたいに小さく見えました。下におりてからパンフレットにきねんのスタンプをおしました。

最後に、プレーリードッグを見ました。大きな庭みたいなどころにはなしがいにしてありました。わたしは、プレーリードッグのあなの中が、すごくふしぎに思いました。



▲プレーリードッグと一緒に

△退職された先生より▽

きめ細かな就学指導

元特別支援教育部長 安藤 真好

学校経営の柱に特別支援教育を位置づけ、微力を尽くしてきました。この三月に退職して、肩の荷が随分と軽く感じる今日この頃であります。

四月より再雇用されて、市教育相談センターの中にある、そよかぜ相談室に勤めさせていただいております。この相談室の主な仕事は、障がいのある子どもの教育相談です。今年度も、園や保護者より、気になる百七十余名の新就学児が挙がってきました。私どもは、一人一人の適正な就学のために、園児観察、そよかぜ相談、秋の専門家による教育相談、発達検査などを行っています。

相談室では、保護者に地元校や特別支援学校への教育相談や見学などを勧めています。保護者に各教育現場の理解を促すとともに、学校にも来年度就学してくる障がい児を知り、どのような個別の配慮や支援が必要かを事前に把握していただくためです。学校が保護者の思いを十分に受け止め、新就学児が四月に学校生活をうまくスタートできる環境を整えていただけることを願っています。

学校での相談の折には、特別支援学級の教育課程、交流及び共同学習などを、しっかりと保護者へ説明していただくことが大切であると思っています。

職場体験



▲店内にて



職場体験学習を終えて

常盤中 二年 長岡 伸

僕は夏休みに職場体験学習で八月二十七日から八月二十八日までの二日間、アルペン岡崎店に行きました。店内では、はじめに、乾いたモップで掃除をしました。その次に、商品がかかったハンガーにサイズを示したタグを取り付ける作業を行いました。その他に、商品の棚おろしや、シューズについたほりを取る作業も行いました。一番思い出に残っている仕事は、店員さんしか使えない大きなエレベーターに乗って、商品を倉庫から運んだことです。普段、お客さんは入ることができない場所だったので、とてもワクワクしました。

たくさん作業があるので、スポーツ用品店の仕事は大変だなと思いました。これからは、いろんな仕事を調べてみたいと思います。

学級紹介

奥殿小 教諭 神谷 築信

今年四月、「ふれあい学級」が発足しました。一年生と四年生の二名でのスタートです。学級訓は「えがお」です。元気の挨拶の声と笑顔で楽しく生活をしています。

教室の前にはふれあい花壇があり、そこでトマトとナスを育ててきました。一学期の終わりにはナスを使ってゼリーを作り、パーティーを開いて楽しみました。二学期はトマトや、校庭で採れた柿や栗でもパーティーを開きました。

学区にある商店に買い物に行くことを目標に、それぞれ学年に応じた買物の勉強もがんばっています。実際に買い物に行ける日も近そうです。



▲社会見学「東山動物園」スカイタワーにGo!



▲英語で自己紹介に挑戦

福岡中 教諭 青山 秀彦

福岡中学校の特別支援学級は二クラスで五名です。楽しく学校生活を送っています。

九月二十二日に行われた体育大会では一年生が「岡崎の舞」を華麗に踊り、三年生はなんと九段や六段のピラミッドに挑戦し、成功させました。

そんな五人が今、取り組んでいるのが、「英語で自己紹介をしよう」です。挨拶をした後に、自分の名前・年齢・職業・好きなものを紹介します。授業を参観してくださった先生方に英語で自己紹介をし、うまくできたらシールかサインをもらう活動では、全員が意欲的に、英語で自己紹介ができました。最後に、全員の前でマイクに向かって堂々と一人でスピーチ。英語の学習がまた好きになったようです。

市特別支援教育部五十七周年記念 授業力・授業者力部アツク

感謝を込めて

あいちLD親の会かたつむり代表

多久島 睦美

長きにわたり、障がいのある子どもたちをご支援いただき、保護者として心より感謝申し上げます。

十八年前、小学校に入学した息子は授業中もいすに座ることさえできない状態でしたが、担任の先生は「子どもが授業に集中できなければ、教師が授業のしかたを工夫すればよい。多久島君が食いついたかどうか、いい授業ができたかどうかのバロメーターです。」と温かい言葉をかけてくださいました。その言葉を中心に、その後様々な困難も乗り越えることができ、本当に先生に救っていただいたと心から感謝しています。

今や、発達障がいもいじめも不登校も「特別なこと」ではなくなりました。障がいのある子への支援だけでなく、差別や偏見をなくすために、周囲の子どもたちの障がい観を育むことも重要な課題です。すべての子どもが排除されることのないよう、特別支援教育の理念が通常学級にも広く浸透してほしいと願っています。

五十周年の重み

元特別支援教育部長

野村 正文

今、ここに部報「かいほつ」のバックナンバーがあります。開くと、特別支援教育の活動内容が手に取るようによみがえってきます。

特に「子どもと親の集い運動会」は意味深い行事であったと思います。
・ 入場行進。子ども一人一人目を見ていたら、子どもの真剣な顔を見ていたら、胸がじーんと熱くなりました。

・ 実施要項。拝見してその綿密なことにびっくり。子どもの体の動き、心の動きをよく知って、よい運動会を、と祈りに似た愛の実施要項でした。

・ 応援席。息をのんで見る親の心を感じ、私は胸がじーんと熱くなりました。

これらの感想の奥に、子ども、親、教師たちの願いが凝縮していることが読み取れます。

今後、子ども、親、教師が感動しあえる教育活動が展開されることを祈っています。

二冊の記念誌に携わって

男川小 教諭 山田 哲也

五十周年の記念誌発行が決まり、前回に続いて表紙の担当になりました。冊子のタイトルは再び「かいほつのみち」です。前回さんさん考えて表紙を作ったので、それを再び練り直します。自分の三十数年の記憶をさかのぼっていくと、多くの先輩たちとの思い出が浮かんできて、そのイメージを表紙にしました。

もうひとつ、五十年の歩みをレイアウトする仕事をいただきました。最初は、ツタが伸びていく感じで、その一葉一葉に主なできごとをあてるイメージでした。何を載せて何を削るか、その時期は正しいか、他のメンバーと共にさまざまな記録を照合していききました。

今回は、原案を自分の未熟なパソコン操作で何とか形にできました。不十分な出来ですが、再度の機会をいただいたことに感謝しています。



▲記念誌の表紙

へシンポジウム参加者の感想

充実した二時間

福岡小 教諭 山本 美智

八月二日、特別支援教育部五十周年記念のシンポジウムと講演会を総合学習センターにおいて行いました。

シンポジウムでは、愛知教育大学副学長都築繁幸様を始め、五人のシンポジストから「岡崎市の特別支援教育のあゆみと今後の展望」についてご示唆をいただきました。

また、作業療法士の小松則登様の講演「感覚統合入門」では、実技を入れた分かりやすい内容で、充実した二時間を過ごせました。この研修会での学びは今後の実践に生かせることと思います。

シンポジウムに参加して

竜美丘小 教諭 明石 満百実

記念シンポジウムでは、愛知教育大学の都築先生や岡崎市市民病院の早川先生、さらに、保護者や園の代表の方をお迎えし、それぞれのお立場から、特別支援教育についてのお話を一度に聞くことができました。大変せいたくな会に参加させていただきました。

その中の子どもものやる気を引き出すドーパミンの話のすぐ実践してみました。すると、魔法にかかったように子どもが自分から学習に向かう姿が見られました。子育てにおいて心を育む大切さを実感しました。